

WEEKLY SIGNAL

2020年8月21日(金) 1538号

上田八木証券株式会社

来週の市場とレート予想

	8/24 (月)	8/25 (火)	8/26 (水)	8/27 (木)	8/28 (金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 300	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 12,200	△ 28,000	△ 10,000	+ 2,000	+ 2,000
資金需給	△ 11,900	△ 28,000	△ 10,000	+ 1,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M)	国債発行(20年)		
オペ期日	共有担保資金供給(△) △ 2,900 国債補充供給 + 100 CP等買入 △ 300			新型コロナ企業金融支援 △ 17,300	米ドルオペ用担保供 + 900
オペスタート	共有担保資金供給(△) + 2,800 国債買入 + 8,700 ETF買入 + 300	社債買入 + 2,000			
(日本)	営業毎旬報告(8月20日現在)			対外・対内証券投資(8月16-22日) 全産業活動指数(前月比)(6月) 月例経済報告(8月)	
(海外)		米サンフランシスコ連銀総裁、パネル討論会に参加(オンライン) 米消費者信頼感指数(8月)		米GDP(2Q) 米新規失業保険申請件数(8月22日終了週) 米中古住宅販売制約指数(7月)	米個人所得(7月) 米個人支出(7月) 米ミシガン大学消費者マインド指数(8月) ユーロ圏景況感指数(8月) ユーロ圏消費者信頼感指数(8月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初451兆8,200億円から始まり、その後は、国債・国庫短期証券買入を主要因に同残高は増加基調となり、週末となる21日には451兆4,000億円となった。無担保コールON物加重平均金利は、新積み期となる17日には△0.052%からスタートするも、その後は基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は上昇基調となり、週末となる21日には△0.037%となった。ターム物は1-2Wを中心に△0.035~△0.025%近辺の出合が散見された。来週の予定は国内では27日に月例経済報告(8月)の公表、海外では25日に消費者信頼感指数(8月)の公表、27日に米GDP(2Q)の公表などがある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.000
TDB 3M	△0.120 ~ △0.075
現先(on/1w)	△0.05 ~ 0.00

<C P>

今週の入札発行総額は約4,700億円で、週間償還額(約2,800億円)に対し発行超となった。夏休明け、事業法人の発行再開で活況を予想したが、大型発行案件も少なく、落ち着いたマーケットとなった。先週末の市場残高(25兆6,178億円)に対し、20日時点では若干増加し25兆6,934億円程度となった模様。発行レートは、CP等買入オペの結果を受け弱含み地合いとなった。18日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円度でオフアールされ、結果は按分レート△0.058%(前回△0.005%)・平均落札レート△0.017%(前回△0.002%)と前回比大きく低下した。来週の償還総額は、9,800億円程度となっている。月末週で案件多く活況を予想するが、月末の大量償還(約8,000億円)に対しどの程度ロールとなるか注目される。投資家の運用ニーズは強く、発行レートは引き続きマイナスから0%近辺の出合いとなろう。26日に、CP等買入オペが6,000億円度でオフアールされる予定。

<TDB>

19日の1Y930回債(8/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1308%(前回債△0.1637%)、平均落札利回り△0.1417%(同△0.1816%)となり、入札後△0.135%~△0.136%のレンジで出合が見られた。21日の3M931回債(11/24償還)の入札は、最高落札利回り△0.0753%(同△0.0661%)、平均落札利回り△0.0829%(同△0.0701%)となり、入札後△0.084%~△0.089%のレンジで出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M929回債(11/16償還)が△0.089%~△0.10%のレンジ、3M926回債(11/2償還)が△0.085%~△0.094%のレンジ、6M927回債(2/10償還)が△0.133%~△0.144%で取引された。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.07%近辺から始まり、週を通して△0.08%~△0.065%で取引された。短国の買入オペや入札はあったものの、大きなレートの動きは見られなかった。SC取引は、10年358回債が19日の国債買入オペ後、△0.1%台後半~半ばで取引された。その他2年401~415回債、5年137~144回債、10年336~359回債、20年164~173回債、30年59~67回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。